

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.110
2025.6

TOPICS

1

共創イノベーションラボ (KIBINOVE:きびのべ) 完成記念式典を開催 ～地域中核特色ある研究大学:岡山大学の新たな共創の場～



6月13日、本学津島キャンパスに新たに建設した「岡山大学共創イノベーションラボ (KIBINOVE:きびのべ)」の完成記念式典を実施しました。

第一部のテープカットセレモニーには、新たな共創の拠点の誕生を祝って多くの来賓や関係者が出席し、華やかな雰囲気になりました。第二部では、那須保友学長が参加者への御礼とともに本学の取り組みについて紹介しました。

式典後には内覧を実施し、最先端の設備やデザインに富んだ開放的な空間設計などに触れました。

今後、分野や立場を超えた多様な人々が集い、語らい、協働することで、新たな価値を生み出す「知の交差点」として、産学官民の連携を促進し、地域課題の解決やグローバルな研究・教育の推進を目指す拠点として、今後さまざまな活動が展開される予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14333.html



TOPICS

2

岡山大学「大学院修学支援制度(2024年度)」修了式を挙行 ～技術職員が1人目の博士号取得、特定助教に認定～

本学は5月22日、2024年度から実施している「大学院修学支援制度」を利用して初めてとなる博士号取得者の修了式を、本学津島キャンパスの本部棟で挙行了しました。同制度は、職員の高度化を目的として、授業料免除やキャリアパス等の支援を行っています。今回、総合技術部医学系技術課の小林智瑛技術専門職員が同制度を利用して初めての博士号取得者となりました。

小林技術専門職員は、自身の担当分野である法医学を専攻。本年3月に博士(医学)の学位を取得しました。また本学は、小林技術専門職員を特定助教に認定。那須学長から小林技術専門職員に大学院修学修了証と特定教員通知書が授与されました。

修了にあたって小林技術専門職員は「皆さまのご支援のおかげで博士号を取得できたこと、特定助教を拝命したことに感謝申し上げます。今後も研究大学である岡山大学の一員として努力してまいります」と、意気込みを語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14294.html



Pick up!

池田家文庫こども向け岡山後楽園 発見ワークショップを開催



6月15日、岡山大学図書館と教育学部の共催で「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を岡山後楽園で開催し、18人(小学生9人、同行者9人)が参加しました。

参加者は、教育学部学生による紙芝居で後楽園の歴史を勉強したり、岡山大学図書館所蔵の巨大絵図(複製)の上を歩いたりしました。その後、グループに分かれて縮小絵図(複製)を手に、自分たちで決めたルートで園内を散策し、絵図に描かれた昔の後楽園と現在の後楽園の違いを発見しました。最後にグループごとに発表を行い、それぞれの発見を共有し、普段とは違った視点から後楽園の歴史に親しみました。

同ワークショップは、教育学部の学生と共に、岡山大学所蔵の池田家文庫に伝わる江戸時代の後楽園絵図の複製画を鑑賞しながら後楽園を観察し、今昔の違いを共有することで郷土の歴史や文化を学ぶことを目的に実施しており、今年度で20周年を迎えました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14343.html

TOPICS
3日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業：
マレーシア事務所の開所式を開催

5月16日、文部科学省受託事業「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業」の一環として、マレーシアプトラ大学(UPM)内に開設した岡山大学日本留学情報センター(OJEIC)マレーシア事務所の開所式を行いました。式典には、在マレーシア日本国大使館の四方敬之特命全権大使をはじめ、関係者100人以上が出席しました。

本学的那須学長は開所にあたり、これまでの関係者からの支援に感謝の意を表するとともに、現地における活動の展開へ意欲を語り、鈴木副学長からは、当事業の具体的な取り組みについて紹介しました。

今後は、同事務所をマレーシアにおける日本留学情報の発信拠点として、UPMを含む現地大学、本邦関連機関、同窓会組織等と連携しながら、日本留学を志す学生の支援活動を一層推進していきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14286.html

TOPICS
4長崎平和国際フォーラムに本学学生が参加
—世界の若者とともに、戦後80年の節目に平和への想いを新たに—

5月16～18日に長崎県で開催された国際フォーラム「Nagasaki Peace-preneur Forum powered by One Young World 2025」に、本学から田中聖愛さん(教育学部3年)、Chok Jia Xuanさん(GDP4年)が参加しました。

フォーラムは、長崎県内の産学官で構成される「One Young World長崎協議会」が主催し、国際サミット「One Young World」の支援を受けて開催されました。2回目の開催となる今年は、戦後80年であり長崎に原爆が投下されてから80年という節目の年にあたります。

同フォーラムは「分断と対話」をメインテーマに、未だ世界を分断する争いが絶えない現状の中、参加者一人ひとりがあらためて「平和とは何か、どのように平和を構築できるか」を深く問い直す機会となりました。

本学の学生たちは、トークセッションやワークショップ、各国参加者とのネットワーキングの場に積極的に参加したり、平和への祈りを込めて一緒に折り鶴を折ったりとさまざまな視点から平和や社会課題を深く学ぶ貴重な体験をしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14329.html

PRESS
RELEASEラットがヒトの手に懐く神経回路メカニズムを解明
～「愛情ホルモン」オキシトシンが鍵！～

岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程の林姫花大学院生(研究当時、学術研究院環境生命自然科学学域(理)助教(特任))、学術研究院環境生命自然科学学域(理)の坂本浩隆教授(神経内分泌学)らの国際研究グループは、ラットがヒトの手に懐くプロセスを支える脳内のオキシトシン神経回路メカニズムを明らかにしました。

本研究では、若年期～思春期のラットの同腹仔間にみられる「じゃれあい」を模した、ヒトの手による「ハンドリング」を連続して行くと、ラットがヒトの手に強い愛着を示すようになることを見いだしました。この過程で、視床下部腹内側核腹外側部のオキシトシン受容体が活性化し、それがラットの愛着行動に不可欠であることを発見しました。

この研究成果は、心地よい触覚刺激がオキシトシンを介して種を超えた社会的絆を形成するという新たな知見を提供するものであり、動物介在療法(アニマルセラピー)や愛着障害の理解、さらには新しい治療法開発に貢献することが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1390.html



ラット-ヒトの手への愛着形成はVMHvlのオキシトシン受容体発現ニューロンによって制御される

